

国立劇場

所在地 千代田区隼町
用途 劇場
竣工年度 1966年
所有者 (特)日本芸術文化振興会
設計者 岩本博行・建設省
施工者 (株)竹中工務店
維持管理者 (特)日本芸術文化振興会



〔審査評〕 国立劇場は、我が国の伝統芸能を伝承し、育成するための施設として我が国で最初に計画されたものであり、昭和38年（1963年）に実施された競技設計で最優秀であった竹中工務店（代表岩本博行氏）の計画案が実現したものである。

平面は、約100 m角であり、大劇場・小劇場・稽古場・芸術資料展示室などからなり、東側の内堀通りに面して観客のためのスペース（ロビー、客室）、西側に舞台・楽屋・機械室などが配置され、正倉院を思わせる校倉造りを表現する外壁と同じようにシンプルな構成である。伝統芸能を上演する空間として、内・外部は共に日本の伝統的精神の表現をとっているが、その構成の手法は合理的な現代建築に対するものである。

外観を特徴づける庇は、外壁の経年劣化を防ぐうえに有効である。竣工26年目の昨年、外壁の改修が行われ、竣工当時の肌合いが再現されているが、打放しプレキャストコンクリート、サンドプラストの上に塗装仕上げという、決して贅沢ではない外壁を守っているのは庇である。

建物の保全計画及び資金計画は、建物の性能の維持（劣化対応）、劇場の快適性・安全性の維持向上、管理部門の執務環境の快適性の維持の3項目に分けて、年度計画に基づき実施されてきた。結果として竣工以来、内部に於いても客席の形状や配置は改良され、より快適なものとなり、内装・機械室など多くの部分で整備更新が定期的に行われ、劇場の機能は、常に良い状況にあることは特筆すべきである。設備機器においては、法定耐用年数（6～17年）を既に経過しているが、適切な改善・更新により致命的な故障もなく、現在に至っている。また、外壁のみならず内装面でも耐久性に富み、メンテナンスの容易な建物となっている点も見逃すことが出来ない。

今後もこれまで以上に、建物の維持管理者と設計者が協力することにより、建物の持つ良さを失うことなく伝統芸能の公開を始め、その機能を発揮するに相応しい環境の維持に努められることを期待したい。